

◆無事故無災害に向けての取り組みについて◆

敦賀港湾事務所では、請負工事の無事故無災害に向けて、次のことに取り組んでいます。
このような取組の結果、労働災害の連続無災害日数は、3800日を超えています。

1.「見える化」による工事安全パトロール

「見える化」とは、現場パトロール時、安全対策が良好なところ、是正すべきところをデジタルカメラなどにより撮影し、その後の講評時に気づいた点を画像を使い説明するものです。

従来の口頭のみで説明する方法と比べて、画像によりポイントが一目瞭然となる利点があります。

また、工事安全パトロールは参加者が他の現場を見て、自分の現場の安全対策の参考にすることや、自分の現場の安全対策について、他の現場からの参加者より指摘や助言を受けることで是正に繋げる効果があります。

当事務所では、請負工事の受注者と合同の工事安全パトロールを、月1回、敦賀港と福井港海岸(福井地区)でそれぞれ実施しており、このような取組を行っています。



「見える化」現場パトロール後の指摘

2. 敦賀港湾事務所合同安全大会を開催

当事務所、福井労働基準監督署、事務所管内の工事に携わる安全協議会会員企業の80名の参加により、敦賀港湾事務所合同安全大会を開催しています。

当事務所より北陸地方整備局(港湾空港部)の安全管理等に係る取組方針の報告、福井労働基準監督署より「リスクアセスメントの大切さ、集中度(緊張度)と表示」と題した安全講話、受注者による安全対策への取り組みや設備の事例紹介を行いました。その後全体に対する質疑応答、大会の締めくくりとして代表者による安全宣言(決意表明)を行い、参加者全員が安全に対する意識向上を図っています。



敦賀港湾事務所 合同安全大会

◆敦賀港 鞠山防波堤の延伸が完了◆



敦賀港に侵入する波を第一線で防ぎ、船舶の安全を守る「鞠山防波堤」は、平成28(2016)年3月、計画延長1,330mまでの延伸整備を完了しました。

この防波堤は、昭和52(1977)年に敦賀新港計画の一環として延長630mが港湾計画に位置づけられたことが始まりで、昭和57(1982)年1月新港整備に着手。その後、フェリーターミナルの移転計画や、鞠山南地区の拡張とともに、1130m、1330mへと計画延長の変更を経て、現在の形になっています。

これまで39年の歳月をかけて整備し、航行船舶の安全性を高めてきました。

平成24(2012)年4月の爆弾低気圧により発生した高波浪により、防波堤のケーソン1函が港内側に滑動する被災を受けましたが、同年で復旧。現在は再発防止のための補強工事を進め、さらなる安全性確保を目指しています。



波を防ぐ鞠山防波堤

□□ 敦賀港(鞠山防波堤)のこれまで □□

昭和59(1984)年



敦賀新港に着手し間もない頃。防波堤が少し見えます。

平成6(1993)年



火力発電所ができていますが、今のフェリー岸壁は建設中。

平成16(2004)年



鞠山南ターミナルを建設中。防波堤が伸びてきました。

平成28(2016)年



現在の敦賀港

◆今年も敦賀港にクルーズ船「ぱしふいっくびいなす」が寄港します◆

- 7月3日(日)
16:00夏の萩・上五島・瀬戸内海クルーズ 出港
- 8月1日(月)
17:00竿燈・ねぶた東北二大祭りクルーズ 出港
- 8月6日(土)
9:00竿燈・ねぶた東北二大祭りクルーズ 入港



クルーズ船出港の様子

以上の3日、クルーズ船「ぱしふいっくびいなす」が敦賀港に寄港します。

From Editors

●発行
国土交通省 北陸地方整備局 敦賀港湾事務所
所長・副所長(事務)・総務課・品質管理課
工務課・企画調整課・保全課・沿岸防災対策室
〒914-0065 福井県敦賀市松栄町2番43号
TEL:0770-22-2590 FAX:0770-21-8101
福井分室 副所長(技術)・総務課・工務課・海岸課
〒913-0037 福井県坂井市三国町黒目24字32
TEL:0776-82-1125 FAX:0776-81-7003

敦賀港湾事務所ホームページ
<http://www.tsuruga.pa.hrr.mlit.go.jp/>
北陸地方整備局 港湾空港部ホームページ
<http://www.pa.hrr.mlit.go.jp/>
「海とみなとの相談窓口」全国共通フリーダイヤル
大いに 良くなれ みなと
0120-497-370
※海やみなとに関するご意見、ご感想をお寄せください。



[2016年 春号 Vol.44]



「港の元気は福井の元気」「地元の貨物は地元の港から」

目次

- 敦賀港鞠山防波堤の延伸が完了 **P1**
- 敦賀港(鞠山防波堤)のこれまで **P2**
- 鞠山防波堤はこんな施設! **P2**
- 港湾BCPIについて **P3**
- 国土交通省「Facebook」の紹介 **P3**
- 無事故、無災害に向けての取り組みについて **P4**
- 今年も敦賀港にクルーズ船「ぱしふいっくびいなす」が寄港します **P4**

1,130mは縦スリットケーソン堤

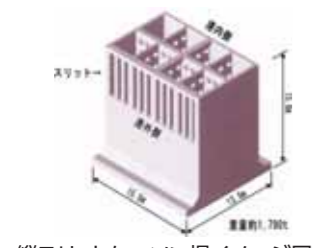
鞆山防波堤1,330mの内、1,130mは縦スリットケーソン堤と言い、日本海から敦賀港へ入ってくる波が当たる面に、スリットと呼ばれる隙間を設けて、ケーソン内部で波を消す構造となっています。

この構造により、防波堤に当たった波の反射を抑えられ、小型船舶の航行の安全や近隣への影響を低減しています。

また、陸上用地の少ない敦賀港では、ケーソンの多くは、FD（フローティングドック）と呼ばれるケーソン製作用台船で作られました。



港外側から見た縦スリットケーソン堤のスリット部分



縦スリットケーソン堤イメージ図



FDでのケーソン製作状況

先端200mは消波ブロック傾斜堤

防波堤先端200m部分については、消波ブロック傾斜堤という構造になっています。

本体ブロックと呼んでいるブロックを芯材としてその両側に消波ブロックを据え付け、波の侵入を防いでいます。

この構造により、縦スリットケーソン堤と同様に防波堤外側への反射を抑制するとともに、防波堤沿いを伝う波の低減や防波堤内側の反射波の抑制も考慮した構造としています。

防波堤先端には、灯台を立てる必要がありますので、堤頭函と呼ばれる一番先端の部分は、通水部のケーソンを転用して灯台を立てられるようになっています。



堤頭函と消波ブロック傾斜堤



据付前のブロック



消波ブロックの据付状況



福井港でもケーソンを製作していました!!

現在フェリーふ頭の護岸となっているケーソンの一部は、敦賀港に陸上用地が少ないことなどから福井港で製作されました。

福井港から当時、日本最大級だった25,000tを積載できる大型台船に乗せて、敦賀港までの40海里(約74km)を9時間30分かけて運搬し、3,000tという重量を吊り上げられる海上クレーンで、台船から吊り下ろして据付られました。



大型台船で福井港から海上輸送されるケーソン



大型海上クレーンで所定の位置へ据付られるケーソン

動いたわけではありません!!

フェリーふ頭から防波堤先端方向を見ると、約300m先に防波堤がズレているように見える部分があります。

これは、敦賀港内の水質を維持するため、海水が防波堤の内外を行き来できるようにケーソンを引き抜いた箇所です。

引き抜いたケーソンは防波堤先端の灯台基礎として利用しています。



防波堤通水部

港湾BCPについて

●港湾BCPとは大規模な自然災害等が発生しても、当該港湾の重要機能が最低限維持できるように、自然災害等の発生後に行う具体的な対応と、平時に行うマネジメント活動等を示した文書のことです。

●港湾管理者及び関係者から構成される「港湾BCP協議会」により策定するものです。

●策定後は、同協議会が主体となって事前対策、教育・訓練、見直し・改善などに取り組むほか、災害等の発生時には、各関係者が対応計画に基づき、その役割に応じて対応を速やかに行うこととなります。

※「国土強靱化アクションプラン2014」において、「国内主要港における港湾BCPの策定率」を平成28年度末までに100%にする目標が定められています。

1. 敦賀港港湾BCP協議会の動き

●平成27年10月15日に、事務局である港湾管理者及び当事務所の主催で、第1回敦賀港港湾BCP協議会を敦賀市において開催しました。

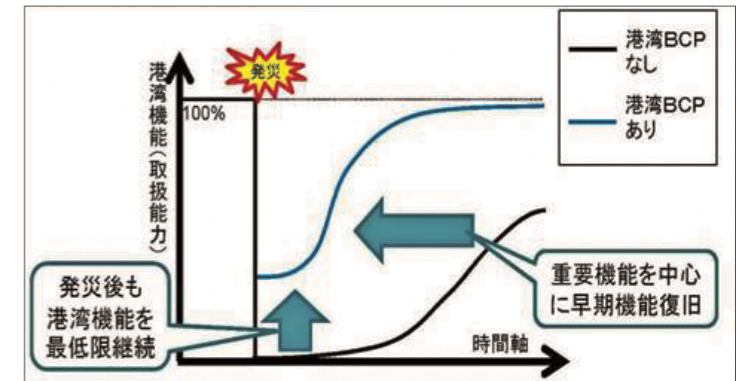
協議会規約の審議・承認及び敦賀港港湾BCP(案)を協議会構成員に対して説明・照会を行いました。

●平成28年1月18日に第2回協議会を開催し、構成員から出された港湾BCP(案)への意見を踏まえて港湾BCPが策定されました。

2. 敦賀港港湾BCPの基本方針

災害時における初動、緊急物資輸送、幹線貨物輸送への対応を迅速かつ確に行うことにより、港湾施設の早期復旧と港湾機能等の中断・低下に伴う影響を最小限に抑えることを目的とし、港湾BCP活動上、次の事項を重点としています。

- ①緊急物資輸送における海上輸送量の確保
- ②2次災害の発生抑止
- ③北海道を結ぶ内貿航路の鞆山北B岸壁・D岸壁早期復旧
- ④外貿航路の鞆山南A岸壁・川崎松栄BC岸壁早期復旧
- ⑤港湾施設等の被害予防・軽減策



港湾BCPの効果(概念図)



港湾BCPのイメージ

国土交通省Facebookの紹介 <https://www.facebook.com/PHB.MLIT.Japan>

国土交通省港湾局公式Facebookページを開設しました。

港に行きたいと思うようなコンテンツから、港の役割、港湾局の政策・事業など内容の深いコンテンツまで、Facebookにより幅広く投稿する予定ですので、ぜひご覧下さい!!

